

仙台市の物流拠点増築

トラスコ中山 在庫保有能力4.6倍



トラスコ中山は、東
日本地域向けの物流施
写真」(仙台市宮城野

トラスコ中山は、東日本地域向けの物流施設「フナネット東北Ⅱ」(仙台市宮城野区)の在庫保有能力を従来比約4・6倍に引き上げた。約72億円を投じて倉庫などを増設し、このほど稼働を開始した。ノルウェー製の自動倉庫型「ピッキングシステム」や「オートストア」など最新の物流機器も導入し、倉庫内の自動化や省人化、効率化を推進する。

今回、工具や建築資材、安全用品などを在庫する倉庫を新設。ブールシートや発電機など災害復旧支援物資を保管する災害備蓄倉庫と、従業員向けの立体駐車場も設けた。これにより、施設全体の延べ床面積は従来比2・7倍の2万8350平方メートルに拡大。在庫保有能力は同約4・6倍の50万アイテム、出荷能力も同約5・6倍となる。1日当たり最大2万9000件の出荷に対応可能となった。

倉庫内には、高密度に収納したコンテナの出し入れをロボットが行うオートストアの専用コンテナを4万7000個保有するほか、梱包・納品書封入の自動化システムやバケット自動倉庫なども導入。また7月には自動棚搬送ロボット「バトル」の稼働も予定する。

トラスコ中山は、全国の物流施設の在庫保有能力を2023年力増強を進めており、未までに50万アイテム増やす計画だ。

トラスコ中山は、全府など主要施設の在庫保有能力を2023年未までに50万アイテム増やす計画だ。